

開催日時：2003年7月19日（土） 13：30～17：30

場 所：伊香郡民会館

参加者数：委員8名、一般傍聴者166名

### 1 本日の試行の会について

三田村委員から淀川水系流域委員会の役割と本日の会の趣旨について説明が行われた。

### 2 一般からの意見発表と質疑応答

6名の発表者から各10分意見発表が行われた後、委員との質疑応答が各5分行われた。

伊吹浩一氏

発表内容：治水、利水だけでなく、河川の生態系が維持されるような対策の検討を。環境教育の義務化、自然環境保全管理等について具体的な方策を施策として考える必要がある、など

杉本剛氏

発表内容：琵琶湖総合開発が始まって、たった30年間で琵琶湖の環境が大きく変わってしまった。100年に1回の洪水に備えることも大切だが、息子の代でも漁師が続けていけるような琵琶湖にして欲しい、など。

永井正彦氏

発表内容：これまでの施策では、山林管理が困難な状況にある。丹生ダムは治水、利水、河川環境保全のためだけでなく、貴重な水を生産・保水する山林の保全も目的の1つとしていることを認識頂きたい、など

中田重樹氏

発表内容：天井川のすぐそばの住人は常に洪水の危険と隣り合わせ。自然環境の保全も大切だが、日々の安全（命）が確保されていることが前提ではないか。住環境の保証をお願いしたい。丹生ダムは少なくとも今よりは生活の安心を与えてくれると信じている。など

藤井孝成氏

発表内容：これまでになかったような出水や濁水が頻発し、地球温暖化が琵琶湖に与える影響は多岐にわたっている。温暖化の影響を和らげるような治水・利水対策が必要。など

村上悟氏（流域委員会 委員）

発表内容：私たちは、利水や過疎の問題を河川管理者に任せてしまったために、そういった問題を共有できなかった。本来は、流域に住む全ての人と一緒に考えてべきこと。河川管理者に、今、取り組んでいる問題の中で住民にできることが何か教えてもらって、取り組んでいくことが、流域全体の環境や社会にとって大事なことだと思う。など

### 3 自由討論

「発表の内容」や「丹生ダム」について、委員、発表者、一般傍聴者の間で意見交換が行われた。

<主な意見>

- ・琵琶湖に一番接している漁業関係者から意見を聴く機会を持って頂きたい。
- ・ダムに関して調査・検討のまま河川整備計画ができあがるのはおかしいのではないか。
- ・瀬切れや森林保全等の問題を解決するためにも、早急に整備計画を策定して頂きたい。
- ・ダムはとても大事な問題。早急に決めるのではなく、何度も議論をしてほしい。
- ・委員会では、ダムが中止された後のことについて議論されているのか。自然環境は放っておいては守れない。人の手を加えて、保全していかなければならない。
- ・丹生ダムの地元と琵琶湖部会との間に距離がありすぎる。地元を琵琶湖部会に取り込んでもらって、議論して頂くようお願いしたい。
- ・本日の会を通じて、委員会の考え方と地元の考え方にそれほどの違いはなく、どちらも地域の将来や若者のために、良くしていきたいと思っていることがよくわかった。 など

以上

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を参照下さい。